

関連項目：教育活動プラン②、③、④

## 人とつながる喜びを味わう「伝え合う力」の育成

### 目的

地域社会や異年齢の子どもたちと交流する場が少ない本校の子どもたちは、信頼関係を構築したり、共感体験を共有したりする体験が不足しているといえます。また、家庭教育力不足の傾向も見られ、基本的な生活習慣や規範意識の向上が喫緊の課題です。そこで、異学年交流や友達と関わる活動を通して、人間関係を築く力や集団生活を通して社会性を身に付けさせ、人とつながる喜びを味わう「伝え合う力」を育成することをめざしました。

### 内容

#### ● 異学年交流の活性化

【ペア】異学年がペア学年となり、朝のボランティア（ちょボラ）を行ったり、ペア作戦のねらいを明記して、クリーン活動を展開したりしました。実施後、ペアの手紙を読んだ6年生は、1年生の感謝の気持ちを感じ取り一生懸命がんばった1年生へのねぎらいの言葉やこれからも仲良くしたいという思いを綴っていました。相手意識や信頼関係を築く重要な活動として捉えることができました。

【トリオ】3学年が3人組となり、多様な運動に親しみ、体力・運動能力向上をめざすパワーアップタイムや音読紹介や群読の工夫にチャレンジするトリオ音読を実践しました。ワークシートをもとに達成できるとシールがもらえるポイント制も取り入れ、意欲化を図っています。高学年のリーダー性の芽生えを見取ったり、集団活動の楽しさを味わわせたりすることで、自己認識力や自尊感情を培っていく実践の一つです。

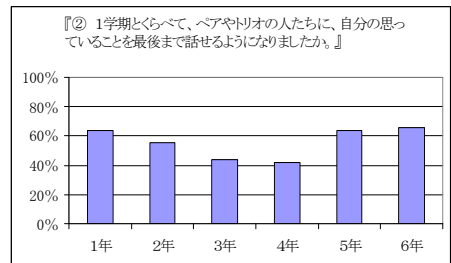
#### ● 授業改善に取り組みながら、話し合いのスキル向上をめざす

【話し合いカード】カードを計画的に活用したことで、効率的に話し合いを進めようとする意識が全校で高まるとともに、役割を分担し、話型を活用しながらの話し合いに慣れてきています。

（研究成果の参考となる10の指標・児童質問紙調査1「話し合い活動」75.9%→84.1%）

【マインドマップ活用】言語活動充実のためのツールとして、マインドマップを活用しています。以下の5つの成果が見られています。①語彙を豊かにし、表現力アップ②自分の考えをもち、自信力アップ③目的や意図に応じて考えを整理力アップ④考えの違いがあることの気付き力アップ⑤考えの異同を整理していく集団思考力アップ

【交流活動の設定】児童の思考が活性化する交流活動の設定について授業研究を行っています。課題解決に向け、話し合いの必要感が生まれるような仕掛けを取り入れることや、話し合いには観点を絞ってキーワードを的確に示すことが重要であることが明らかになりました。異学年交流等を通して、人間関係調整力を高め、表現への意欲化をめざしたことも、交流活動を推進するのに効果的でした。



### 成果

信頼関係の中で共感し合う体験を重ねながら、伝え合う楽しさを体感できているようです。交流活動の推進により、質問力も少しずつ向上しています。（児童質問紙調査3「質問・解決」66.4%→73.9%）

今後は、相手の立場や、場の雰囲気や大切にした、よりよい質問の在り方を求め、質問のチャンスや授業や教育活動の中で意図的に設定していく工夫が求められています。さらに、全校でも表現タイムやわくわくタイム等の内容を見直し、質の高い質問力をはぐくんでいく活動を模索していきたいと考えています。